

2020年2月2日 説教「悔い改める機会を」

ヨハネの黙示録 2章 18-29 節

黙示録 2章。テアテラにある教会への手紙です。四番目になります。

1. テアテラの教会の長所 (18-19 節)

- ①テアテラ (18) **「また、テアテラにある教会の御使いに書き送れ。」**
テアテラという町は地図にあるように、ペルガモの南東 50 キロほどに位置していました。七つの教会のある都市の中では、一番小さな町でした。しかし、この教会への手紙が一番長いのです。この町には太陽神テュリムノスを祭る神殿があり、ユダヤ教と異教の混合となった迷信や魔術的儀式がはびこっていました。諸種（亜麻布、銅細工、皮革、染色、羊毛等）の同業組合がありました。ピリピでパウロから受洗した紫布の商人ルデアという婦人は、テアテラの出身でした（使徒 16:14）。今、そのテアテラにある教会の指導者に手紙が送られたのです。
- ②神の子が (18) **『燃える炎のような目を持ち、その足は光り輝くしんちゅうのような、神の子が言われる。』** その送り手は神の子。イエス・キリストです。1章 14-15 節ですすでにその姿が示されていました。「その目は燃える炎のようで、その足は、炉で精錬されて光輝くしんちゅうのようであり、その声は大水の音のようであった」
- ③愛と信仰と奉仕 (19) **「わたし、あなたの行いとあなたの愛と信仰と奉仕と忍耐を知っており、また、あなたの近ごろの行いが初めの行いにまさっていることを知っている。」** テアテラの教会の美点は、行い、愛、信仰、奉仕と忍耐でした。エペソにある教会は、「最初の愛から離れてしまった」と注意されましたが、テアテラの教会は、その行動において、初めの行いにまさっていると言っていたのです。始めは一生懸命でも、だんだん色があせてくる、力を抜いてしまい、ごまかすなどとなりやすいのです。しかし、その信仰に基づく行わないに、成長があったとあります。長所と言えましょう。

2. テアテラ教会のイゼベル (20-23 節)

- ①イゼベルという女 (20) **「しかし、あなたには非難すべきことがある。あなたは、イゼベルという女をなすがままにさせている。この女は、預言者だと自称しているが、わたしのしもべたちを教えて誤りに導き、不品行を行わせ、偶像の神にささげた物を食べさせている。」** ところがこの教会に問題がありました。預言者エリヤの時代（紀元前 9 世紀）のイスラエル王はアハブでした。彼は偶像礼拝を取り込んでいました。そして、アハブを操っていたのが妻イゼベルでした（I 列王 18-21 章）。彼女は預言者達を虐殺したり、ぶどう畑の所有者ナポテを殺害しました。今テアテラの教会にも、



イゼベルのような存在がいることに注意喚起がなされる。

- ②悔い改めなければ (21-22) **「わたしは悔い改める機会を与えたが、この女は不品行を悔い改めようとしぬ。見よ。わたしは、この女を病の床に投げ込もう。また、この女と姦淫を行う者たちも、この女の行いを離れて悔い改めなければ、大きな患難の中に投げ込もう。」**テアテラの教会のイゼベルが誰なのかはわかりません。しかし、彼女は不品行を悔い改めようとはしません。そこで、主は彼女を病の床に投げ込もう、つまり裁くというのです。また、彼女と不正を共にした者たちも患難の中に投げ込まれるとあります。かつてイゼベルの最期は悲惨なものでした (Ⅱ列王 9:36)。
- ③死病によって (23) **「また、わたしは、この女の子どもたちをも死病によって殺す。こうして全教会は、わたしが人の思いと心を探る者であることを知るようになる。また、わたしは、あなたがたの行いに応じてひとりひとりに報いよう。」**テアテラ教会のイゼベルの追随者達にも死病という厳しいさばきがあると警告されます。その心の奥底まで探られるというのです。私達の罪の根は動機にあります。主はそれをご覧になっておられるのです。

3. 持っているものを保ち (24~29 節)

- ①ほかの重荷を (24) **「しかし、テアテラにいる人たちの中で、この教えを受け入れておらず、彼らの言うサタンの深いところをまだ知らないあなたがたに言う。わたしはあなたがたに、ほかの重荷を負わせぬ。」**テアテラのイゼベル一派の影響は、その教会内部にも及んでいました。しかし、サタンのそのような深い策略に従わない者たちに約束がなされます。それは、「他の重荷を負わせぬ」というものでした。キリストの「わたしのくびきは負いやすい」(マタイの福音書 11:30) や「耐えられない試練はない」(Ⅰコリ 10:13) という御言葉を思い出します。
- ②勝利を得る者 (25-26) **「ただあなたがたの持っているものを、わたしが行くまで、しっかりと持っていなさい。勝利を得る者、また最後までわたしのわざを守る者には、諸国の民を支配する権威を与えよう。」**テアテラの教会は「行い、愛、信仰、奉仕、忍耐」という点でほめられていました。彼らは誘惑に陥らないために、教会の美点を保ち活用しなさいと励まされます。また主の再臨まで、霊的勝利を得て主を見上げ続けていく人には、この地上の力に負けない権威が授けられるとも約束されるのです。
- ③土の器を (27-29) **「彼は、鉄の杖をもって土の器を打ち砕くようにして彼らを治める。わたし自身が父から支配の権威を受けているのと同じである。また彼に明けの明星を与えよう。耳のある者は御霊が諸教会に言われることを聞きなさい。」**前節には「諸国の民を支配する」とありますが、それは鉄の杖をもってなされるというので

す。それほどの力強さをもって土の器は打ち砕かれるというのです。それは主イエス御自身が父なる神より受けている権威と同じだといふのですから、恐れ入るメッセージでした。さらに「明けの明星」(金星のことと思われる)をもって、暗闇を明るくしていただけるというのです。まさに、主の御言葉はよく聞くべしなのです。

《結論》

今朝の聖書箇所の中では、イゼベルという不信仰の女性のことが印象的です。旧約聖書では、エステルやルツ、新約聖書では三人のマリヤ(イエスの母、ベタニヤの、マグダラの)やプリスキラなど信仰深い女性たちが出てきます。一方で不信仰な姿を表す女性についても、記されています。エバ、デリラなどがすぐに思い出されますが、イゼベルは彼らに優るとも劣っていません。黙示録ではこのイゼベルになぞらえて、テアテラの教会イゼベルのような女性が潜んでいると言います。そして、その不信仰が教会を腐らせてしまうことを警告しています。旧約のイゼベルは権力者の妻ですから、横柄になりやすい下地がありました。テアテラの教会ではどうだったのでしょうか。その背景はわかりませんが、男女を問わず私達を傲慢や自己中心から不信仰が生まれ、教会にひびをもたらしことあることを覚えましょう。

23 節で主は悔い改めを促しています。一方的に裁かれるのではなく、悔改める機会を与えてくださっているのです。イゼベルのような不信仰であれば、悔改める機会が与えられなくても仕方がないとさえ思われます。が、悔改める機会を主は用意してくださっていたのです。しかし、テアテラの教会のイゼベルは、耳を貸さず、悔改めようとはしません。そこで、主は厳しい御手を伸ばされようとしているのです。覚えておきたいことは、手は差し伸べられ、悔改める機会が与えられているということです。私どもも、その悔い改めの促しを聞いたならば、素直に主のもとに帰りたいものです。

もう一つ、まだイゼベルに踊らされていない人、つまりサタンの誘惑から守られている人に、主は、「ほかの重荷を負わせぬ」(24 節)と示され、「持っているものを、しっかりと持っていなさい」(25 節)「鉄の杖をもって土の器を打ち砕く」(27 節)と励まされていることです。主を見上げようとする者に、信仰を保ち、立っていく手段を与えてくださるのです。何をすることも道具が用いられますが、不信仰と戦う道具が授けられるのです。その見えない道具はそれぞれ違うかもしれません。テアテラの教会には「愛、信仰、奉仕、忍耐」が授けられていました。あなたに与えられている霊的道具を用いて主を見上げましょう。主はまた「明けの明星」を与えるとも言ってくださいています。暗い情報が多い時代に、私達を灯す「明け

の明星」、イエス・キリストをこそが私達を照らし、明るくしてくださるのです。この明かりを見上げながら、この方のところに帰っていきましょう。